

## 改修等の優先順位及び対象範囲の考え方（案）について

## ■改修等の優先順位（第 1 期で改修等できなかった施設の扱い）

考え方①すべての施設を総合判定（再評価）する

- ・現時点の施設の劣化度等に合った順番で修繕できる
- ・現時点で実際に劣化度の悪い施設は後まわしにしても良いのか

考え方②第 1 期で改修等できなかった施設を優先した順位とする

- ・第 1 期の優先順位を継続でき、計画の継続性を確保できる
- ・第 1 期の優先順位はなかったことにしても良いのか
- ・第 1 期をもとに準備していた施設が予定通り行える
- ・長寿命化改修・大規模改修を予定し、これまで実施したい修繕を見送りしていた場合、更なる見送りによる安全性の低下が予想できてしまう。
- ・再評価かつ対象範囲を第 4 グループとした場合、第 1 期に位置付けられていた施設が令和 1 7 年まで何もできなくなるというのはいかがか。



## 事務局（案）

考え方②第 1 期で改修等できなかった施設を優先した順位とする を採用したい

第 1 期の優先順位を継続でき、計画の継続性を確保できる  
第 1 期をもとに準備していた施設が予定通り行える

## ■第2期計画に位置付ける対象範囲

### 考え方①第4グループまでを対象とする

- ・予算的に担保を持った計画とすべきでは
- ・予算の裏付けなく計画を策定した場合、結局スケジュール通り改修できないような計画となるのでは

#### 第4グループまでとした場合

【金額】年平均（10年間）  
総額 8億6,050万円  
起債 6億7,830万円  
一財 1億8,220万円

○対象範囲を第5グループ（31施設）とした場合よりも金額面で約38.8%負担減

○目標使用年数※を超えても、なお、長寿命化改修等を行えない施設が多くなる

#### 第5グループまでとした場合

【金額】年平均（10年間）  
総額 14億600万円  
起債 11億6,700万円  
一財 2億3,900万円

○第4グループ（15施設）よりも金額面で63.4%負担増

○第3期を終えた時点で、すべての長寿命化改修等が終えられる。

※目標使用年数  
RC・SRC造：60年  
S造：50年  
W造：40年  
軽量S造：30年

2

（参考 検討会議資料一部抜粋）

- ・人手的な面も考えられているか。現在、財産管理課営繕係に対して工事や設計等をお願いしているが、第5グループになった際に、業務量と処理量のバランスはとれるのか。
- ・施設は予測せず、不具合が起きたりして、修繕費がかさむことが考えられる。それを見越すのであれば第4グループまでの方が現実的であると考えられる。

### 考え方②第5グループまでを対象とする

- ・予算という流動な指標を軸に計画を作るとは難しく、すべての改修工事に予算的担保をするという考え方は、現時点では難しいと考える。
- ・対象範囲を第4グループにした場合は、手つかずで修繕することなく目標使用年数を越してしまう施設が多くなるという事実があり、それを計画とすることはできないのでは。
- ・対象範囲を第5グループにした場合は、第3期を終えた時点ですべての長寿命化改修等が終えられる。



事務局（案）

考え方②第5グループまでを対象とする を採用したい

- ・利用者が施設を安全に利用できる前提の計画としたい